

鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.36(2025. 7月)

社会科同好会編⑦ 「第五福竜丸展示館見学＆もんじゃ焼き」

2025年7月21日(月・祝)午後、夢の島公園内にある第五福竜丸展示館を生徒9名、教員2名で訪問し、アメリカの水爆実験で被爆した第五福竜丸をはじめとする漁船やマーシャル諸島の島民の被害について、学びました。以下、参加した生徒の感想を紹介します。



◆第五福竜丸展示館に行くのは2度目だったけれど、改めて水爆実験の被害について深く知る機会があつたよかったです。説明してくれた方が、「第五福竜丸の事件と呼ぶのではなく、本当はビキニ事件と呼んで欲しい」というのを聞いてすごくハッとした。日本人からするとこの水爆実験による大きな被害は日本がメインという考えになつてしまふけれど、実際は水爆実験が行われた近くのマーシャル諸島で大々的な被害があり、船は洗えるけど島は洗うことができないという言葉が心に残りました。今回の展示では第五福竜丸がメインとして扱われていたので、個人的にマーシャル諸島への水爆被害やその後のアメリカの対応を詳しく調べてみたいと思わせられました。もんじゃの方はいつも仲良い人たちだけでなくみんなでテーブルを囲んで食べて、たくさん話してすごく楽しかったです。

◆1954年に第五福竜丸が被爆してから今日まで、第五福竜丸を残すことや未来に語り継ぐことがどれだけ大変なのかが分かった。私たちが実際の船や貴重な資料を見られるのは過去の人たち(特に私たちと同じくらいの若い人たち)が努力して未来に残してくださったからだと思う。そのため、託された私たちができる事は、館員の方も仰っていたように『第五福竜丸事件』を「第五福竜丸が水爆実験によって被爆した事件」としてくるのではなく『ビキニ事件』として、「日本人漁師だけでなく、島に住む人々、生き物や環境、そして人の心にいたるまで多くの犠牲を出した事件」であると伝えていくことだと思った。もんじゃとつても美味しかったです。

◆今日は第五福竜丸の展示を見学しました。自分は第五福竜丸については知っていましたが、詳しい内容までは知らなかつたので、今回の展示を通して多くのことを学ぶことができました。過去の「負の遺産」が今まで受け継がれてきたことは、とても意義深いことだと思います。そして、これからは私たち高校生が次の世代の中心として、このような歴史をしっかりと受け継いでいかなければならぬと感じました。また、放射線の被害を受けた方々が大きな苦しみを抱えていたにも関わらず、「第五福竜丸事件」として一括りにされてしまっていたことには、強い悲しみを覚えました。もんじゃはとてもおいしかったです！

◆初めて第五福竜丸展示館に行って、初めて知ることが沢山ありました。特に久保山さんの残した言葉が心に残っています。もんじゃ美味しかったです！！！あんこチーズ巻きとチョコ巻きが美味しすぎてビックリしました！！！

◆水爆による被害が、珊瑚や放射線によって髪が抜けたり頭痛を感じるなどの身体的なダメージだけでなく、被害にあつたことによる周囲の人々からの差別があつたり、偏見が広まつてしまつたことによって、被害について訴えることができないという、精神的にも苦しみを感じていたことを知り、改めて戦争や戦うことの恐ろしさを体感することができました。また、目で見るだけでなく、実際に説明を聞いたり紙芝居などで情景をイメージしたりしながら聞くことができたため、より臨場感があり、水爆の事件に関わっていた人々の感情に移入しながら学ぶことができました。戦時中や戦争後すぐに起きた被害や事件は学校の授業や歴史の中で学ぶことが多いのに対し、第五福竜丸などで起きた事件のように、戦争から少し時間の経つた頃の出来事には触れる機会が少なく今回で初めて知ったお話が多いなと感じました。なので、こういった出来事があつたことを知る機会が少ないのですごく残念です。これからも伝えていくべき内容のお話ばかりで、今後の世代にも他の戦争と同じように話が広まり、理解が深まればいいなと思いました。今回色々な高校の方と交流したり、お話を聞いたりして、こんなに多くの人が興味を持って活動に取り組んでいるということに驚きました。意欲的に話を聞いて質問していく、私には見つけられなかつた視点での事件への見方があつて新しい発見が多かったです。自分たちの目線だけでなく、別の立場になって物事について考えられるようになりたいと思いました。